

日本言語聴覚士協会

設立趣意書

コミュニケーション障害に関わる専門職が我が国に誕生してから約40年が経過しました。私たちはコミュニケーションに問題を持つ方に対して、できるだけ質の高いサービスを提供し、その生活の質の向上と社会参加を支援することを願い、日々の活動を行って参りました。さらに専門的サービスを全国に隈無く行き渡らせ、自らの資質を高め、社会的な責務を果たすためには、公的資格制度を確立することが必要であると考え、職能団体としての活動を展開して参りました。1975年の日本聴能言語士協会の結成に始まるこの活動は、その後、1985年には日本言語療法士協会の発足という経過をたどりました。両協会には資格制度のあり方などをめぐるいくつかの意見の相違がありましたが、その違いを乗り越えて両協会の協力の下、1997年12月には言語聴覚士法の成立を見ることができました。そして昨年3月、第1回国家試験が実施され、4003名の言語聴覚士が誕生し、新たな時代の幕が開かれました。言語聴覚士有資格者の誕生に至るまでの道は決して平坦なものではありませんでした。困難な状況の下でコミュニケーション障害に関わる諸分野の発展に貢献して来られた両協会のご努力、並びに、これまでご支援下さいました全ての関係諸機関および関係者各位のご理解とご尽力に厚く御礼申し上げます。

国家資格を得た現在、言語聴覚士に寄せられる社会的期待はこれまでとは比較にならないほど大きく、私たちにはこれに応える責務があります。私たちはコミュニケーションに問題を持つ方々の生活の質の向上に貢献するとともに、人に与えられた宝というべきコミュニケーション能力についての知識を深め、その障害に対処する専門領域の発展に貢献するために有資格者団体を設立することにいたしました。私たちはここに我が国の言語聴覚士が一堂に会する、日本言語聴覚士協会の設立を提案いたします。皆様方のご賛同を心よりお願い申し上げます。

現在、我が国の保健・医療・福祉・教育を取り巻く状況は急速に変化しており、各方面でさまざまな構造改革が進んでいます。このような状況の中で私たちが取り組む必要のある課題は山積しています。過去の歴史から学んだことを教訓として踏まえ、すべての役員ならびに会員が自由にかつ責任ある論議を重ねながらも誠意を尽くして団結し、新たな道を開き、新時代を築いて行かねばなりません。我が国におけるすべての言語聴覚士が本会に集い、よりよく融合し合い、確かな力量と誇りをもって社会的な期待に応えることのできる協会を作るという歴史的事業に参加されますよう、切にお願いする次第です。

日本言語聴覚士協会理事会